

リサーチ科目

●リサーチ科目における研究指導の流れ

本研究科では、「リサーチ科目」において、指導教員のもとに修士論文完成までの研究指導を受けます。

本研究科は、高度専門職業人として必要な論理構成力（正しい方法論）、自己の実践経験をひとりよがりな視点から解放して相対化するための理論的知識、説得力ある表現能力等を身につけ、それらを統合する素材として、修士論文の執筆を重視しており、論文提出を修士課程修了のための必須要件としています。論文指導教員は、出願時の希望を基に入学時に決定されます。

リサーチ科目は、各指導教員が運営する掲示板上のゼミナール形式の演習室であり、各院生は主としてここで2年間研究指導を受けます。

研究テーマ	指導教員	担当科目	担当期間
1. 社会問題の調査・分析	佐藤 健一	社会問題の調査・分析	1年次後期
2. 社会問題の調査・分析	佐藤 健一	社会問題の調査・分析	2年次後期
3. 社会問題の調査・分析	佐藤 健一	社会問題の調査・分析	1年次後期
4. 社会問題の調査・分析	佐藤 健一	社会問題の調査・分析	2年次後期
5. 社会問題の調査・分析	佐藤 健一	社会問題の調査・分析	1年次後期
6. 社会問題の調査・分析	佐藤 健一	社会問題の調査・分析	2年次後期



本研究科の研究指導は、働きながら、あるいは国内外の開発現場にいながらにして受けられます。また、現場のホットな情報と問題意識に基づく討論を、リサーチゼミで行うことができます。そうしたWeb上での指導のみならず、院生が帰国した折に、ゼミ生らが集って「対面ゼミ」を行ったり、教員の出張先で近隣在住のゼミ生が集ったりするといったように、「通信制」の枠組みとイメージにとらわれない、密度の濃いコミュニケーションが柔軟に行われているのも、本研究科の特長です。1年次では「2年間の学習計画と研究計画」を練り直し、1年次終了までに「修士論文計画」を策定します。これと並行し、文献研究や予備調査に着手します。

2年次は、修士論文計画に基づいて、本調査を終え、修士論文の執筆を開始します。リサーチ科目での演習を中心に指導を受けながら、テキスト科目の課題レポート、および国内外のスクーリングの経験を統合する形で修士論文の執筆を進めます。2年次秋の中間報告会、修士論文第一次提出を経て、1月下旬頃に修士論文を完成させ、学位授与申請を行います。

学位授与審査は口頭試問を原則とし、名古屋キャンパスにて研究科内の公開で行われます。

リサーチ科目における 研究指導の流れ・ステップ	修業年限
	2年修業(標準)
(1) 研究計画書練り直し	1年次
(2) 修士論文計画審査	1年次後期 2月
(3) 修士論文中間報告会	2年次後期 秋
(4) 修士学位請求論文 第一次提出	2年次後期 12月～1月初旬
(5) 修士学位請求論文提出	2年次後期 1月下旬
(6) 論文審査・学位授与	最終年次 2月～3月

